

## 第2次川西市総合戦略(案)に係る

### 意見提出手続結果

- 1 意見募集期間 : 令和元年12月17日(火) ~ 令和2年1月15日(水)
- 2 意見提出人数 : 9人
- 3 意見提出件数 : 36件
- 4 提出意見については別紙のとおりです。  
お寄せいただいた意見は、それぞれの項目に分類し記載しています。  
ただし、個人等が特定される箇所や内容が募集対象に合致しない意見については記載していない場合があります。
- 5 意見提出者の氏名については、個人が特定されることのないよう、アルファベットで表記しています。



意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
1	全体	引っ越しするなら川西市へ。子育てするなら川西市へ。仕事するなら川西市へ。と言えるものがほしいと考えます。計画を見ましたが川西市としてのカラーが見えません。広く浅くという計画ではなく、人が集まりたいと思える政策の実現を強く望みます。	この総合戦略は今後3年間で重点的に取り組む内容を定めたものですが、内容が具体的でない箇所があったため、より具体的にわかりやすく修正しています。総合戦略の基本的な考え方である、「何気ない日常に幸せを感じるまちづくり」、「川西の良さを大切にしたい新たなまちづくり」を進めることで、結果として、人が集まりたいと思えるまちにつながると考えています。	B
2	全体	・地域の魅力をアピール 自然環境、教育環境は子育てにベスト。このところの自然災害を目にして、沿線住宅は災害にびくともしない実情、阪神東北以来の地震、津波、大火、河川水害、浸水、土砂崩壊、これらは無縁を強調誘致タイトルの一に挙げるべき。	災害に強く、安全で安心して暮らせることは大きな魅力になると考えています。地理的な強さに加え、地域による助け合いや日頃からの災害への備え等を支援し、より災害に強いまちをめざします。	I-3
3	全体	・どのように若年世帯を呼び寄せるか 一戸建て生活の魅力と子育て教育環境のアピール。5万円台の一戸建て生活がタイトル、メディア対策、インターネットの活用、賃貸市場に公開、沿線住民に制度徹底宣伝、息子夫婦、娘夫婦を呼び寄せる。大手企業人事担当者に直接セールス。賃貸仲介業者に積極的周知。	ご意見のように、人口特に若年世帯の転入を増やしていくことは、地域の活性化を進めるうえで重要であると考えています。ただ、本市では人口の増加を目的にするのではなく、まず住民の幸せを大切にする施策を進め、住み続けてもらうことで、結果として人口減少の抑制につなげたいと考えています。そのうえで、総合戦略の子育てや安全・安心の取組みを充実させて、若年層の流入・定住の促進を図っていきます。	I-5
4	全体	これからの市民の高齢化に向けて、2つ提案したいと思います。 1. 介護される方が増えていく将来、特別養護老人ホームに入れない方も今でも200人待ちと言われる現状を踏まえて、例えば、ホームホスピス(特養の家版)を設立する方を市として応援していくとか。大好きな慣れた川西で、家族の近くで安心して介護の必要になった方々が、何とか支払える範囲の費用で、老後を過ごしていけることは、お年寄りの幸せだけでなく、若い方々も安心して暮らしていける街作りになるのではないのでしょうか。	本市では、介護保険事業計画に基づき、計画的に介護サービスが提供できるよう取り組んでいます。今後も、高齢者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、必要なサービス提供体制の整備等を図り、地域包括ケアシステムの構築に努めていきます。	E-1
5	全体	2. 高齢者用の歩いていける例えば、自宅に近いちょっとした公園が少ないように感じます。ちょっと木があって、ベンチがあって、散歩して、自然の中で休憩できるスペース。大好きな川西の緑に囲まれた小さくてもホッとできる自宅の外の居場所。そこで日光浴をしたり、読書をしたり。ちょっと外に出ることで、高齢者の生活にメリハリも出来、健康にも良いのではないのでしょうか。ますます、川西が好きになりそうです。	都市公園を整備する計画はありませんが、民有地を活用する制度もありますので、調査研究を行っていきます。	E-2

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
6	全体	<p>第2次総合戦略では、寄せられた意見を活かした具体的な「かわにし新時代」のグランドデザインを創り、より具現性のあるアクションプランの提示、及びそのスケジュールを提示し、「市民と共に歩むまちづくり」を実現に向けたフェーズに移行させることをご提案します。</p> <p>【提案】 住宅都市としての魅力向上に向けたエリアマネジメント戦略プランの展開をご提案します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 川西市としての地域再生エリアマネジメント戦略プランの提示</li> <li>2. 市内の自然資源を活かしたグリーンインフラ推進プランの提示</li> <li>3. 郊外型住宅団地へのエリアマネジメント手法による再生プランの提示</li> </ol> <p>【理由】 ・住宅都市としての魅力向上に向けた方策の不足・マイナス処方への偏り： 重点戦略3-1に、防災・防犯対策(マイナス処方)の記載あり 重点戦略3-2に、空き家対策(マイナス処方)の記載あり 重点戦略4-2に、従前から繰り返されている歴史・文化資源の活用の記載があるのみ マイナス処方 = 短所・欠点や不安を補うための対策 ・川西市の強みを活かしたプラス処方の不足：住んでみたい魅力ある街としてのアピールポイントを創出・伸長する施策が圧倒的に不足 市民会議からの提案にアイデアは散見されるが、包括する戦略性が見られない プラス処方 = 長所・優位点や期待を膨らませるための施策 ・高齢化による街の縮減が進む郊外型住宅団地の目指すべき方向性や方策の不足： 重点戦略3-3に、交通対策として若干のプラス志向の記載あり</p> <p>【総合戦略に盛り込みたい事項】 戦略プランを実現に向けたフェーズに移行させつつ、新市政の「市民と共に歩むまちづくり」という特長を活かした政策立案過程を、市民と共有・協働できるかがポイントと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 川西市としての地域再生エリアマネジメント戦略プラン 川西市 + 市民・企業・NPO等が連携して地域の価値向上に取り組み、持続可能性のある( = 事業性確保により単に税金に依存せず、様々な地域価値の創出・向上に貢献する)地域が主体となったエリアマネジメントの仕組みをプランニングする。 ・まちの賑わいづくり、街並みや景観演出、公共空間の魅力化、 ・公共施設の民間活用 &amp; 民間施設の公共活用、まちの情報発信 ex. マチミチ会議：国交省「まちなかウォークアブル推進プログラム」 居心地が良く歩きたくなるまちなかへの修復・改変を推進 全国200以上の市町村が加入済み、昨年末時点で川西市は未加入</li> </ol>	<p>本市は南北に細長い地形で、それぞれの地域で特徴や課題が異なっているため、各地域の特性に応じた対応が重要であると考えています。そのため、総合戦略に基づき、先端技術の活用や民間事業者との連携など、新たな取り組みを進めることで、まちの活性化や魅力の向上を図り、住み慣れた場所で安心して暮らせるまちづくりをめざしていきます。</p>	G-4

意見番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
7	全体	<p>2. 市内の自然資源を活かしたグリーンインフラ推進プラン 市最大の強みである日常にある身近な自然資源を、最大限に活かしたまちづくりを行う。自然を守る存在から、地域社会に価値を産む存在として捉え直し、自然の機能や仕組みを地域活性化のために積極的に取り込んだ能勢電各駅前広場・バスターミナルの再整備、公園緑地Park-PFI・公園長寿化リノベーション、健幸まちづくりに役立つ広場・緑道整備、低未利用地利活用計画、里山・森林・保存緑地の環境整備、自然資源・神社仏閣・旧跡・遺構のプロファイリング、自然資源・利活用計画の見える化 ex. グリーンインフラを活用した新たなまちづくり(茨城県守谷市)</p>	<p>ご意見のように、本市は豊かな自然を身近に感じられるという強みがあり、他にも歴史や文化など様々な地域資源を有しています。この地域資源を相互に組み合わせ、まちの魅力を効果的に発信していくことが重要であると考えており、ご提案いただいた内容も参考にしながら、住宅都市として魅力あるまちづくりを進めていきます。</p>	G-5
8	全体	<p>3. 郊外型住宅団地へのエリアマネジメント手法による再生プラン 川西の郊外型住宅団地の有する固有資源の魅力や特性を最大限に活かし、公園・緑地、道路交通をはじめとした公共空間等を、緑と水を日常に取り込んだデザインやアート、イノベーションの力で、街並みの付加価値を高めて行く再生プランの策定。高齢者への安全と本来の機能を保ちながら、新しいアイデアと工夫に演出を加えた「街並みリノベーション」を施すことで、この街は、憧れの住まいの舞台に生まれ変わる可能性を持っています。高齢居住者の資産が比較的高水準にあるため、経済的な居住者マーケット力は未だに大きく、民間資金を惹きつける力のあるここ5年程の間に、エリアマネジメント手法による再生プランを構築することが肝要と考えます。</p>	<p>本市はこれまで住宅都市として発展し、今後も住宅都市として魅力あるまちであり続けるためには、ご意見のように、住宅都市として発展してきた強みや特性を活かしたまちづくりを進める必要があります。本市では人口の増加を目的にするのではなく、まず住民の幸せを大切にす施策を進め、住み続けてもらうことで、結果として人口減少の抑制につなげたいと考えています。併せて、総合戦略の子育てや安全・安心の取組みを充実させて、若年層の流入・定住の促進を図っていきます。</p>	G-6
9	P.4 第1章 3(3)市民とともに歩むまちづくり	<p>・市民とともに歩むまちづくりについて 現時点では市民とともに歩んではない川西市です。交通費補助の2,000円はなくし(市民は今でも望んでいます)、北部の住民は2万以上の署名をもって入院で救急車の搬送のある現市民病院を希望しながら(北部は唯一浸水病院ではない)、全く市民の声を聞こうとしない(努力しない)。子どもたちが自校方式がいいと言っても、センター式にと市民と歩むまちづくりではなく、市の一方的な考えのまちづくりになっていて、参画と協働のまちづくりの理念に反している。</p>	<p>第2次総合戦略の策定では、市民会議を開催し、将来のまちのありたい姿を市民とともに考え、行政と一緒に進めてきました。今後も市民会議の参加者を含めた多くの方々に市政に関わっていただき、協働によるまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>	A-6

意見番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見 提出者
10	P.21 第3章 重点戦略1 子どもたちの成長を支えあえるまちづくり 施策2	<p>・留守家庭児童育成クラブの入所希望者の受け入れ拡大について 第2次川西市総合戦略(案)にも記載されている「子どもたちの成長を支えあえるまちづくり」達成のため、子育て世帯が仕事と家庭生活を両立できる環境を整備し、入所希望者の受け入れ拡大を図って頂きたい。しかし、ただ単に民間事業者を募り、形だけ受け入れ態勢を整えたとするのではなく、利用者が心から安心して利用できる環境を提供することが最優先事項であると考えている。民間事業者活用の場合、学校敷地内から小学生本人が民間事業所まで移動する必要があり、移動間における安全確保に著しい困難さがある。特に3年生くらいまでの児童は、友達とふざけながら歩くことは常であり、いつ突発的な動きをするかわからないものである。そもそも民間事業所まで安全に移動できるのであれば、そのまま自宅に帰宅が可能ではないか。親が最も心配し、求めているのは低学年の児童の安全な場所の確保である。幼児から小学生になる段階で、特に女性の離職が問題になっているのは、まさにこの点が大きいのであります。</p> <p>今後、市が第2次川西市総合戦略(案)を本気で実行し、市や市民の発展を本気で考えるなら、まずはこの事業を最優先で取り組み、「利用希望者全員を受け入れる」を最低限の目標にし、本気度を示していただきたい。すぐに目に見える改善効果があり、市の本気度を示す良い案件である。民間事業者の活用は控え、原則学校内に施設を設置(増設)し、保護者の不安解消を確実に行うべきである。学校によっては校庭が多少狭くなったり、増設工事等により騒音が発生すると思うが、その後受ける恩恵の方がはるかに莫大である。事業予算(建設・人件費等)は大きいと想像されるが、お金が掛かるからやらないではなく、児童の安全確保、女性の社会進出促進、市内への人口流入・増加、市内商店街活性化、税収増加、と連鎖的な好循環をもたらす第2次川西市総合戦略(案)にふさわしい事業と考えます。</p>	<p>就労する保護者の増加等に伴い、年々増加する待機児童の解消のため、公設クラブと民間クラブが連携して取り組む必要があると考えています。今後も待機児童の解消を重要な課題であると捉え、学校の余裕教室・特別教室等既存施設の活用を基本としつつ、公設の受入登録者数の増加や民間誘致等によりその解消を図っていききたいと考えています。</p>	C

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
11	P.22 第3章 重点戦略1 子どもたちの成長を支えあえるまちづくり 施策3	<p>〔人口減少や少子高齢化に対応し、市の特徴を生かしたまちづくりを進める〕 少子高齢化については、晩婚化、子無し世帯や独り身世帯の増加等の要因があるのではないだろうか。しかし、晩婚化対策として市で出会いの場の斡旋等を企画する場合、参加者の確保は難しく、また結婚後川西市に引き続き居住できる戦略を単一視点から考えることは難しいだろう。子無し世帯や独り身世帯についても短期的な対応は功を奏さない。</p> <p>そこで、人口減少についてという切り口から、人口の流出と流入について論じたい。人口流出の要因として、社員の勤務地変更、家庭事情等は市の対応で回避する事は実質不可能である。しかし、住環境や子どもの教育についての対応は可能であると考えられる。ここで狙いとし、既に子供がいる世帯や今後妊娠・出産の予定がある世帯の流出を防ぎ、流入を促すのに如何に川西市が魅力的であると感じてもらえるかが重要である。</p> <p>人が住居地の移動を考える要因としては、ライフステージの変化(進学、就職、結婚、出産等)がある。そして、移動の選択にもある程度法則性があるのではないだろうか。住み替えとしての転居には、居住者の住環境の向上を目指す世帯が多い。特に子どものある家庭では、女性や子どもを主体に考える必要がある。幸い、川西市は(坂道が多いため車移動の必要性はあるものの)生活に必要な日用品の購入に窮することがない。医療関係は一部偏りが生じているが、現状緊急時の対応含めて対処が可能な状態となっていると考える。</p> <p>以上を総合し、今回私は、人口減少対策として教育関係の変革、子育て世代に望まれる街への改革案を提案したい。</p> <p>まず教育について、現在不足している内容で必要と考えるのは次の3つである。</p> <p>”実践的な英語教育”、 ”実体験を主体に置いたプログラミング習得”、 ”お金の知識”</p> <p>”実践的な英語教育”について、 日本の英語の教育は、その期間について世界的にみても十分長い。にも関わらず、実用・実力としては諸外国に遥かに劣っている現状がある。その理由の一端には、社会や日常生活で必要とされるスキルを身につける機会が少ないことがあると考えている。言語とは元来、コミュニケーションの手段の一つである事から、相手の意志を受け取る、自分の意志を相手に伝えることが本来の目的であるが、現在の教育では『解答』とその道筋のみを学習する内容が多く、実用性に乏しいのである。自分の意見をどう伝えるか、可能ならより簡素に確実に伝えるかを学ぶ必要がある。そのためには、感受性が豊かな幼少期から英語教育を実施する事が望ましい。地域行事として、英語遠足や、遊びを通じた英語を学ぶ機会を準備し、市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校毎の合同で実施する制度を設ける事によって、社会に出た際の関係構築のスキルも習得するように促すことが必要と考える。</p>	<p>子育て世代の外国語教育への関心は高く、その充実には保護者の満足度向上につながるるとともに、転入先を選択する時の1つの視点となりうると考えています。</p> <p>外国語教育においては、学習指導要領の改訂に伴い、外国語活動(小学校中学年)、外国語科(小学校高学年、中学校、高等学校)の目標には、「言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する(一部略)」ことが示されました。言語活動とは、例えば小学校の段階では、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動であり、まさにご提案いただいた「実践的な」英語力を身に付けることを目指すものです。</p> <p>この新学習指導要領は、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面实施されます。市では、新学習指導要領が求める新しい外国語教育が、全ての学校で確実に展開されるよう、平成29年度より、教員対象研修、文部科学省と連携した事業、ALTの段階的な増員、希望する中学校でのEnglish Camp等を行っているところです。</p> <p>市内外の皆様に、本市の外国語教育に魅力を感じていただけるよう、何よりも、本市の子どもたちに国が求める英語力が確実に身に付くよう取り組んでいきます。</p>	H-1

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
12	P.22 第3章 重点戦略1 子どもたちの成長を支えあえるまちづくり 施策3	<p>"実体験を主体に置いたプログラミング習得"について、多くの業種における業務の自動化や、IoT、ビッグデータ活用の潮流の中、将来における職業上の人的需要が大きく変化すると考えられる。勿論、人間が実施する事でホスピタリティを感じるような業種は今後も残り続けるだろう。しかし、大手銀行が掲げる店舗窓口の自動化計画や、モノづくりの現場におけるオートメーション、車の自動運転、自動調理等、人の手を必要としない世界が広がりつつあるのもまた事実だ。その時代への対処を、後手に回らずに実施する事は急務であると考え。これはまた、現在の大人の将来の雇用問題や、子供が生きていく上での職業選びにも関係するものである。(一例として、自身の経験だが、パソコンを使う業務上、プログラミング技術は2010年代中盤から特に必要性が高まった。ソースコードを一から書ける力までは必要とされずとも、既存のコードを任意の内容へ変更するか、少なくとも全体の意味を解った上で調整し使いこなす力が必要だ。)しかし、プログラミング教育をするためには、実施教育者の育成が最初の課題となるだろう。将来的な計画案と、それに準じた教育者の育成が必要である。市としては、将来的な最終構想を打ち立てた上で、それを実施すべく教員教育補助制度やセミナー等での教員教育の場を提供してはどうだろうか。構想を軌道に乗せる為にも、教育補助については習得後の一定期間の従事等の制約が必須、それをいち早く実施する事で、他の市との差別化と近代技術に強い市の政策を実施する。</p>	<p>研究開発校での実践公開、プログラミング教育研修の実施、研究組織によるカリキュラム作成や実践発表、教員組織によるカリキュラム作成や実践発表、教員専用のポータルサイトへの掲載を通して、実践事例や指導法・指導技術の共有を図っています。民間団体との協働、各種団体の補助制度の活用等を視野に入れたプログラミング教育の充実についても、将来的な構想と合わせ、検討が必要であると認識しています。</p>	H-2
13	P.22 第3章 重点戦略1 子どもたちの成長を支えあえるまちづくり 施策3	<p>"お金の知識"について最後に、お金の知識について論じたい。私は日本における金融リテラシー教育は大きく遅れていると考えている。大学で経済学・経営学などを専攻しなかった場合、(必須取得科目だからという理由等で)授業を受講こそすれ、自分事として認識できる学生は少ないだろう。また、社会に出てからの金融知識収集は、自主性に任されている部分が多い。結果として、世の中のお金の流れやその知識について詳しく知らない人が多いのが実情である。そのような中、年金不足2,000万円問題もあり、資産形成への世間の注目は高まりつつある。しかし、身の回りで具体的な対策を取っているとはなかなか聞かない。金融知識は、社会人になる以前から身につける必要があるのではないだろうか。アメリカでは学生のうちからお金の循環と経営者思想を学ぶ事を実践している州もあり、ある一定の成果を出していると聞く。今後、必要となる知識として認識されつつある今だからこそ、早期に金融・経済知識を身につける機会を教育の場で整え、それにより他の市の教育とは異なった、人生設計の選択肢を増やす教育の提供、いわば川西市に住む利点を見出してもらえ教育を提案したい。</p> <p>上記3点を実施する事で、川西市の教育という内容を確立し、アピールポイントの一つに挙げることで子育て世代の流出防止及び流入を促すことを提案する。</p>	<p>取組みについては、学校教育段階における金融教育の理解を進めているところです。社会科の授業を中心に、学びを深めています。これからはますます必要性が高まるのが予想されます。現在は、金融リテラシー教育の啓発・普及に向け、金融庁や日本銀行が作成している教材についても、情報発信を行っているところです。</p> <p>ご提案のとおり、今後は良質な金融教育教材の選定、取り入れなどについての検討を進めていく必要性も高まるものと推察しています。</p> <p>また、個の学びを今まで以上に充実していく中において、ICT機器を効果的に使い、金融教育を推進していくことができるように、教育基盤を構築していく必要性も感じています。地方銀行と企業等と共同で、金融教育教材を開発している例も見られますので、まずはこのような例を参考に、金融リテラシー教育の進め方について、検討していきます。</p>	H-3



意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
14	P.32 第3章 重点戦略3 安全で安心して暮らせるまちづくり 施策2	<p>・家賃補助、住宅改修補助(リフォーム) 改修補助は制度化されていないながら利用者はないとの住宅政策課の回答にびっくり。市民に全く周知されていない、広報誌などメディアの露出が望まれる。数少ない転入者の選択理由は親の呼び寄せ、ほぼ全て娘夫婦、長男夫婦はまれ、同居はお互いに疲れる、近くに購入する決断はなかなかできない、賃貸で十数年いづれ親の家を引き継ぐことに抵抗はない。賃貸市場でインターネット検索して戸建ての物件は少なく能勢電沿線は全く見かけない。</p> <p>・一戸建て60坪130㎡・3LDK5万円戦略 これなら考えてみる、対象者が振り向きメディアの対象になりわっと反響が期待できる。対象住宅が市場に出回っていないので相場観は7万円台として家賃補助が貸主に還元されれば双方に受け入れられる。</p> <p>・市県民税の増収効果 定年後と現役時代の市県民税額を比較その差に驚く。現役世帯誘致は地域の活性化につながる、家賃補助制度の持ち出しは将来投資と考えるべき。</p>	<p>空き家活用リフォーム助成制度については、活用しやすい制度に改め、広報の充実に努めます。問題が顕在化する空き家対策を充実させるため、空き家発生の予防や民間事業者と連携した空き家マッチング制度などの仕組みを導入し、空き家の有効活用に向けた取組みを進めます。</p>	I-2
15	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	<p>・愛着のもてるまちづくりについて 川西の花りんどうを活かした施策。民間事業者との連携は極力おさえ、市が全力で知恵を活かし、取り組んでいくべきです。清和源氏、源満仲の像をきんたくんだけでなく、バス等へ動く宣伝として描き、走らせるべきです。</p> <p>源氏まつりの宣伝ができていない。もっと広く宣伝すべきです(経済効果のため)。オンデマンドモビリティの導入は必要ではない。市が運転手を雇い、市の宣伝を兼ね、きんたくんや源満仲を描き、動く広告塔として走らせるべきだ。市の税金を無駄にしないために。知らなかった人も知る事になる(これが一番の宣伝効果)。</p>	<p>川西市花のりんどうや清和源氏をはじめとした歴史や文化、自然などの地域資源の魅力を高め、効果的に発信していくことが大切であると考えています。そのためには、情報発信の技術や能力に長けた民間事業者と連携をすることで、より効果的な発信につなげていきたいと考えています。</p>	A-5

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
16	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	<p>・重点戦略4 愛着のもてるまちづくり</p> <p>川西市は会社事業所が人口のわりに少なく、税収が主に住民市民税に頼るところが多いと思われます。又、人口減少に(16万もきてきている感じですし)高齢化で減ってきております。税収のためにすでにいろいろとされているのですが、最近力を入れている観光資源を市民一人ひとりが考え、実行できる人はしていかなければならないと思います。お隣の池田市はその点うまくやっているようですが、地形的にも人的、文化歴史的にも違うところもある。独自の何かがあればと思うのですが、北部の里山、中部の清和源氏・多田神社・郷土館、南部の特産物などにやはりどうしても頼らなければならないのが現状でそれはそのままでもいいと思うのですが、そこからなにか他の市町村にないアピールイベントなどを発信していかなければならないと思います。</p> <p>自分が考えるにはやはり歴史のある多田神社が核ではどうかと。ただ多田神社はあまり派手なイベントとかはあまりやってないようです。(神社ですので、おごそかで、静かなたたまいも保ってなければならないと思います)</p> <p>以前、国体の競技で弓道が会場になり、りっぱな弓道場があるように武芸武術をもう少しアピールしてはどうでしょうか。海外のインバウンドでも日本の文化の一つに武術にふれたくってくる欧米人が多く(忍者もブームですがあちらこちらにありますし)、例えば甲冑や鎧で記念撮影が多田神社(市の体育館公民館でも)でできるとか、いろんな武芸武術が日本には多数あるので、その演武などを月に2回とか開ければ武士発祥の地、武芸の街として海外にもアピールできるのではないかと思います(お隣の池田市では駅前に観光案内所があり、英語中国語などのパンフレットもあります)。</p> <p>中学校でも武術が必修になっているようですし、上記の案はいかがなものでしょうか。</p>	<p>清和源氏発祥の地、日本一の里山と称される黒川地区といった本市にしかない唯一無二の資源を強みとして観光PRを展開していく必要があると考えています。</p> <p>また、ご提案にある武術関連のイベントの開催につきましては、源氏まつりの関連イベントとして毎年開催しており、今後の開催のあり方も含め関係団体と検討していきます。</p>	F-1
17	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	<p>知っている人は少ないと思うのですが、川西市の白地図が龍(ツツノオトシゴ)にそっくりですので、こじつけになるかもしれませんが、なにかその形をした特産物などつくっても(ドラゴンバルは知っていますがもう少しアピールできるものが)よいかも知れないと思います。</p>	<p>本市の形がツツノオトシゴに似ているというのは、市の特徴の一つだと考えており、市の持つ様々な地域資源の魅力を掘り起こして磨きをかけ、効果的に発信していきたいと考えています。</p>	F-2
18	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	<p>能勢電鉄さんに無人駅が多いので、なにか駅室など簡単な居場所ができれば地域住民でそれぞれ活用できないかと(費用がかかるのでむずかしいですが、北条鉄道さんの無人駅活用でも参考になれば)思います。</p>	<p>駅の活用については、鉄道事業者が検討していくということになりますが、本市としては、誰もが気軽に立ち寄り、交流することができる拠点を増やしていきたいという考えはあります。ご意見も参考にしながら、検討していきます。</p>	F-3

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
19	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	<p>【提案】 多彩な市民力を活かした包括的・戦略的な戦略的広報の展開をご提案します。1. 川西市としてのシティプロモーション戦略、2. 市民間の多様な情報コミュニケーション支援、3. 川西市のファン(関係人口)づくり支援</p> <p>【理由】 情報発信機能の分散: 今回の総合戦略では、情報発信の取組みが各事業ごとに分散しており、広報戦略としての包括的・一元的な方策が不透明 重点戦略2-1、4-3に、市民内の情報発信・共有の記載あるが分散 重点戦略4-2に、市内外向け情報発信・広報の記載あるが分散 相対的ポジションの低さ: シビックプライドランキング2018によると、川西市ランキングは151自治体中94位と低迷しており、近隣市に比べ相対的なポジションがかなり低い。 関東・関西の人口10万人以上・全151自治体における住民意識の民間調査 近隣上位市: 6位箕面・16位吹田・20位伊丹・21位茨木・28位宝塚・31位西宮・32位枚方・38位豊中・39位高槻 情報の格差と断裂: 世代間・世帯区分ごとの情報格差や相互間の情報共有に断裂が見られる。例えば、新聞・雑誌等のアナログ情報やテレビに依存傾向の強い高齢層と、SNS系から好みの情報を入手する若年層では、入手する情報が違い、相互間の情報共有もほとんど皆無。現実には、更に細分化・個別化が進み繋がりが辛い。 【総合戦略に盛り込みたい事項】 1. 川西市としてのシティプロモーション戦略 ・広報センター機能を設け、市や関連機関に分散している広報機能を包括・集約化 ・ターゲットを定めたシティプロモーション設計。市民向け(愛着・誇り・共感・継続居住等) / 市外向け(観光・訪問・滞在・移住等) / 市内外の連携(共感・応援・繋がりがり・他者推奨等)</p>	<p>広報センター機能を設け、市や関連機関に分散している広報機能を包括・集約化につきましては、広報担当部署を中心に、市として発信すべき情報を精査し、誰に、いつ、どのような方法で発信するかを検討していきます。また、ターゲットを定めたシティプロモーション設計につきましては、20～30歳代女性、市民向け、市外観光客向けなどターゲットを意識し、InstagramやFacebookを活用し、プロモーションを展開しているところです。 今後も、誰に何をどのように伝えることがもっとも効果的かを念頭に置きつつ、プロモーションを展開していきます。</p>	G-1
20	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	<p>2. 市民間の多様な情報コミュニケーション支援(地域内外の多様な関係者の力を引き出す) ・市広報と民間情報発信の繋ぎ設計 ・民間同士の情報発信の繋ぎ支援の仕組化 ・民間情報発信への支援制度設計 ex. 豊能町: トヨノドリーム・・・ 情報発信能力を本物のプロが指導するファン育成プログラム</p>	<p>地域内外の交流のプラットフォームとして、ご当地Facebookページ「かわにしさん」を運営しており、市民の方に本市の魅力や発見を投稿いただき、相互に情報交換を行うことで、かわにしファンを増やすプログラムを展開しています。一方で、Facebookページ「かわにしさん」の投稿数やフォロー数が伸び悩んでいることから、市の情報に精通した民間事業者との連携や川西ゆかりのアーティストなどの協力による発信など、新たな展開を検討していきます。</p>	G-2

意見番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見 提出者
21	P.35 第3章 重点戦略4 愛着のもてるまちづくり	3. 川西市のファン(関係人口)づくり支援 ・市外在住の川西出身者・地縁者の情報共有支援 ・川西由来コンテンツへのファンづくり設計 ・地元だけでなく市外からの参加も視野に据えた交流イベント・販わい創出の仕組化支援 等	地域内外の交流のプラットフォームとして、ご当地Facebookページ「かわにしさん」を運営しており、市民の方に本市の魅力や発見を投稿いただき、相互に情報交換を行うことで、かわにしファンを増やすプログラムを展開しています。一方で、Facebookページ「かわにしさん」の投稿数やフォロー数が伸び悩んでいることから、市の情報に精通した民間事業者との連携や川西ゆかりのアーティストなどの協力による発信など、新たな展開を検討していきます。	G-3
22	その他	・なぜ能勢電鉄沿線から逃げ出すか 高齢者の転居先は駅近マンションが実態、都心への時間距離よりバスと能勢電の負担。梅田に1500円二人で3000円、現役時代なら気にすることもなかったが全て身に。 ・転勤族や若年層はこの沿線を選択しない 能勢電の割高運賃とバス代、家族の負担が重すぎる。 ・能勢電、バスの補助 電車経営の長期戦略をどう考えておられるか。将来増はありえない不人気沿線から逃げ出す実態に一人一人の利用回数を増やすしかない。沿線回帰対策にはよほどの時間と費用をとめない長期戦略になる。大胆な高齢者割引と通学定期の割引を提唱したい、運賃形態を阪急の支線運賃に議会提案と市民運動の一環として展開。市と阪急能勢電当局との交渉案件に。	能勢電鉄は市民生活に欠かせない公共交通機関であると考えています。魅力的で、住みやすいまちづくりを進めるために、これからも連携協力していきます。	I-1
23	その他	・医療費節減効果 高齢者医療費が社会保障制度の根幹を揺るがしています。「病気の9割は歩くだけで治る」電車で出かける習慣は医療費に直結する。	高齢者医療費の節減等のもとより、健康であることは市民の幸せの実感につながることから、楽しく歩くことなど健康づくりに取り組む意欲が喚起される施策は引き続き実施していきます。	I-4

意見番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見 提出者
24	その他	<p>計画期間を令和2年度～4年度の3年間としていますが、その中で370事業の再検証を行うとしている。2018年度の決算で市の借金が720億もあり、早期健全化基準350.0%、将来負担比率117.5%（阪神間トップ）でありながら、キセラへの病院（協和会に管理・運営）に355億5千万（利息含）市が全額借入すると、市の借金が1,000億以上にも膨れ上がり財政再建団体となり、破綻しかねない。</p> <p>夕張市も10年前に322億（市民12万人）で破綻し、現在では12万人いた人口は1万人を切っている。限られたサービス、市民税の負担増となっている。川西市も1,000億の借金（15万7千人）となればサービスはもっと悪くなり住民の流出が加速し、破綻となっていく可能性があるため、早急に考えなければいけないことの第一が病院建設を見直し、一極集中ではなく最初の計画（北部で建て替え）キセラは協立病院が土地を買い建設する計画に戻すべきです。なぜなら720億も借金がありながら、借債を増やす考えを少なくすることを第一に考えるべきであるから。元に戻し、北部での医療を市と市民が全力でよくする事を考え、努力すべきです。36年では老朽化とはいわない、北部で建て替えても100億くらいで再建できる。三田市民病院も96億4,500万の赤字であったが2年間で黒字になり、努力されているのを見習うべきです。現市民病院の管理、運営を市が指定管理料を払い協和会に委託したが、医療収益は減少し、看護体制の後退等々、協定書の約束違反となっているので協和会に中止の申し立てをすべきです。</p>	<p>市立川西病院は平成14年度以降赤字経営が続くなど、厳しい経営の中で、平成27年9月に経営健全化団体となりました。その後、策定した健全化計画の達成に向け、全病院職員が一丸となって病院改革に取り組んできましたが、医師の不足により重症患者の受け入れが十分に出来ないことなどから、診療単価が上昇せず、平成29年度決算でも収支改善にいたらず、このままでは公立病院を維持できない状況に至りました。</p> <p>病院収益の悪化、それを支えてきた市の財政支援の限界、病院スタッフ確保の問題、病院施設の老朽化により建設せざるを得ないなどの課題に対応した取り組みを行う必要がありますが、市立川西病院は経営健全化団体となっているため、市の単独事業では新しい病院建設に必要な資金の調達ができない状況です。</p> <p>指定管理者である医療法人協和会と協力して再編・ネットワーク化に取り組むことで、国からの財政支援を受けることができ、建設費に対する市の実質的な負担総額を約14%に抑えることができます。</p> <p>市といたしましては、将来にわたっても、市民の命と健康を守り、安心で安全な医療を提供していくためには、小児・周産期・救急などの政策医療や高度な医療を担う公立病院が必要であると考えており、（仮称）市立総合医療センター基本構想に基づいた取組みが最も現実的な選択肢であると考えています。</p> <p>指定管理者には社会医療法人化を求めており、このことは救急などの不採算医療の実施と税制上の優遇措置につながります。</p> <p>今後も、引き続き不採算部門を継続的に実施するために指定管理料で支援していくとともに、これまでと同様のサービスを維持していきます。</p> <p>総合医療センターの立地については、市民全体の利便性や医療スタッフの確保の観点から、市域全体の基幹病院としての役割を果たすために、市の中心部であるキセラ川西地内に決定しています。</p>	A-1
25	その他	<p>・民間の活用について</p> <p>民間は営利目的になりやすいのでサービスも悪くなり又、市は監督が疎かになりやすい。その例が昨年市民からの摘発で民間に任せたピンの回収作業。2名体制でありながら1名で作業し、利益は2人分の請求を市にしていたため、5年間で5,000万の返金を市が求めている。すべて市民の税金であることを念頭において市の職員並びに議員はしっかり一人一人が自覚すべきです。センター方式も自校で。</p>	<p>民間活用の目的は、単にコスト削減を目的とするのではなく、民間事業者の持つ技術やノウハウを活用し、市民サービスを向上させることを目的としています。業務内容等は契約書等で定めませんが、ご指摘の空きビン回収業務についてはモニタリングが徹底できていなかったと認識しています。監査結果に基づいて市で調査のうえ、今後返金請求をしていくと同時に、業務の進行管理についてしっかりとモニタリングしていきます。</p> <p>また、中学校給食については、川西南中学校第2グラウンドの一部を活用し、2022年2学期からのセンター方式による実施に向けて、準備を進めています。</p>	A-2

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
26	その他	<p>・業務の改善について(人員) 720億の借金があるので人員を減らし、業務についてもテキパキとやればできるはずだし、議員の人数も減らし報酬もボーナス含め500万でやるべき。市長や市の職員も減額して市民のサービス向上に努めるべきです。(市民の血税です)</p>	<p>今年度から3年間を財政健全化の集中期間と位置付け、全ての事業を再検証し、将来にわたって効果的かつ効率的な行政サービスの提供をめざしています。市長をはじめ職員の給与削減はすでに実施しており、今後も業務に応じた職員配置を進めることとしています。ICTの活用や民間事業者との連携などにより業務改善を図り、市民サービスの向上に取り組んでいきます。</p>	A-3
27	その他	<p>・安全で安心して暮らせるまちづくりについて 高齢化がわかっていながら北部に病院(入院)を残さない等、不安・危険なまちづくりに向かっていて、北部の三町を合わせ10万人以上が市に不満を持っていることに気づくべきだ。北部に病院やスーパー等、交通機関のバス等がなくなれば、必然的に人口は減少し空き家は増加する。空き家を増やさないためにもパイプラインは必要なので若い人が出ていかにいかに又空き家に若い人が住んでもらうためにも、南部にも北部にも病院は必要。入院のできる市の経営の病院は残すべきです。</p>	<p>市立川西病院は平成14年度以降赤字経営が続くなど、厳しい経営の中で、平成27年9月に経営健全化団体となりました。その後、策定した健全化計画の達成に向け、全病院職員が一丸となって病院改革に取り組んできましたが、医師の不足により重症患者の受け入れが十分に出来ないことなどから、診療単価が上昇せず、平成29年度決算でも収支改善にいたらず、このままでは公立病院を維持できない状況に至りました。 病院収益の悪化、それを支えてきた市の財政支援の限界、病院スタッフ確保の問題、病院施設の老朽化により建設せざるを得ないなどの課題に対応した取り組みを行う必要がありますが、市立川西病院は経営健全化団体となっているため、市の単独事業では新しい病院建設に必要な資金の調達ができない状況です。 指定管理者である医療法人協和会と協力して再編・ネットワーク化に取り組むことで、国からの財政支援を受けることができ、建設費に対する市の実質的な負担総額を約14%に抑えることができます。 市といたしましては、将来にわたっても、市民の命と健康を守り、安心して安全な医療を提供していくためには、小児・周産期・救急などの政策医療や高度な医療を担う公立病院が必要であると考えており、(仮称)市立総合医療センター基本構想に基づいた取組みが最も現実的な選択肢であると考えています。 総合医療センターの立地については、市民全体の利便性や医療スタッフの確保の観点から、市域全体の基幹病院としての役割を果たすために、市の中心部であるキセウ川西地内に決定しています。 市北部地域においては、引き続き安心して安全な医療を引き続き提供していくために、現市立川西病院の正面駐車場に4診療科6診と院内開業スペースを備えた診療所を整備するとともに、センターとの協力連携を進めていきます。</p>	A-4

意見番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見 提出者
28	その他	<p>・何気ない日常に幸せを感じるまちについて 720億ひいては1,000億の借金をかかえる川西市がのんびりと絵に描いたような抽象的な事を言っている場合ではなく、足元に火がついているのを消す努力を一刻も早くしないと手遅れになり破綻する。職員一人一人が自分の事を考え川西市を破綻しない努力をすべきです。前項最低のサービス、市民税が高くなり住民が他県等に移っていく。40年前の川西市は市税も多くなるおっていたが、市が対策を考えてよりよい方向に向かっていかないと大変な間違いを起こすことになる。</p>	<p>今年度から3年間を財政健全化の集中期間と位置付け、全ての事業を再検証し、将来にわたって効果的かつ効率的な行政サービスの提供をめざしています。また、再検証を通じて、職場風土として定着させて、継続的に検証を実施する組織づくりと職員の意識改革を図っていきます。 併せて、住民の幸せを大切にす施策を進め、住み続けてもらうことで、結果として人口減少の抑制につなげたいと考えています。</p>	A-7
29	その他	<p>・市役所 市役所は市の「顔」となります。狭いところに建設せず、広いところで堂々とたたずんでほしい。それにはアステの上部か、阪急電車川西能勢口駅の上あたりか、もしくはその周辺に大きなロータリーを持って、バス停、タクシーの乗降があり、市役所の分室を持たなくて良く、市民の各種会議が十分に出来るような大きな建物が欲しい。お金が掛かるでしょうが、住み易く楽しい川西市、誇り高い川西市、通勤に便利な川西市になれば、50年位の返済計画で出来ないか。</p>	<p>現在の市役所の建物は、改修により維持をしていく方向です。将来、老朽化により市役所の建て替え等が必要となった時には、人口減少や少子高齢化、まちの変化などその時の状況を踏まえて検討します。</p>	D-1
30	その他	<p>・無電柱の町「川西市」、テレビのアンテナ排除の町「川西市」 災害に強く、美しい「無電柱都市川西市」の町を作る、出来る処から計画を進めたい。テレビのアンテナ、電柱・配線が市の隅々まで有ります。これらは生活上必須ですが、すっきりした都市も魅力です。一気に工事を進めるのは無理ですが、話し合いがまとまった自治会から順に進めてはどうでしょうか。上水・下水・電気・ガス・通信が一体になったインフラも魅力があります。</p>	<p>当市の無電柱化については、川西能勢口駅周辺の駅前広場等やキセラ川西地区内の豊川橋山手線の新しい事業については、整備の際に併せて、一体的に実施してきました。一方、既存の道路については、多額の費用が必要となることから、現在のところ計画はありません。</p>	D-2
31	その他	<p>・道路の美化(清掃) 特に幹線道路では毎年植栽の手入れが行われ美化を保っています。ありがたいことです。でも、手入れから手入れの間には枯葉が舞、草花が生息しています。背の高い草や密集した草が美観を壊しています。これに対して提言したい。道路に面した所有者はそれなりにいろいろの利益を得ていますから高い土地を所有していますが、川西市を美しくする為には手入れも必要です。道路に面した土地の利用者は道路の中心より土地所有側の道路の清掃・草引きを義務化してはどうでしょうか。幹線道路から実施し、順次支線に拡大していったらどうか。</p>	<p>ご提案をいただいた道路に面した土地の所有者に管理をお願いする手法については、今後他市の事例等を調査し、地域の皆様と協力して取り組める仕組み等を研究していきます。</p>	D-3

意見番号	意見の分類 (該当のページ、 項目など)	意見の内容	市の検討結果	意見提出者
32	その他	・能勢電鉄と川西能勢口 能勢電鉄は主に川西市を走っています。でも名前は「能勢」が付いています。能勢へ行く入口としての役割があったのですが、日生中央も出来た現在は、「川西電鉄」と変更してはどうでしょうか。又は社名はそのままにして名称を「川西線」としてはどうでしょう。更に、駅名も「川西能勢口」から「川西」に変更してほしい。	鉄道事業者の名称や駅名は行政では変更することができません。能勢電鉄は市民生活に欠かせない公共交通機関であると考えており、魅力的で住みやすいまちづくりを進めるために、これからも連携協力していきます。	D-4
33	その他	・能勢電車の高架と鼓滝・多田駅の合併 滝山駅南の踏切が良く渋滞しています。川西能勢口駅は高架になっていますので、更に平野駅迄高架にして渋滞を解消してはどうか。同時に鼓滝駅と多田駅が隣接していますので、その中間に新駅を作り併合しては如何でしょうか。新駅の南出口と北出口を作れば商店街もそんなに弊害はないと感じます。更に、高架線上は空いていますので、自然エネルギーの活用で太陽光発電電気を導入してはどうでしょう。	能勢電鉄の高架化については、多額の費用が必要となるため、国の補助事業の採択基準(幹線道路の踏切遮断時間:ピーク時40分/時以上等)に合致する必要がありますが、基準に合わないことから、計画はありません。能勢電鉄は市民生活に欠かせない公共交通機関であると考えており、魅力的で住みやすいまちづくりを進めるために、これからも連携協力していきます。	D-5
34	その他	・銀橋の渋滞解消 川西能勢口駅前から清和台住宅への新道路が完成し、鷺森駅前の道路の渋滞が随分解消されましたが、まだ渋滞は続いています。そこで、警察前の道路を東へ伸ばし、猪名川の上に新橋を作り、川の北側を走る道路に接続すれば南北渋滞問題は解消になると思う。是非、道路の伸延と橋の新設を願います。	令和元年度に市内全域で交通量調査などを行いましたが、現在のところ新設道路や橋梁の必要性はないと考えています。	D-6
35	その他	・夢勝庵の修復 私の近くに「夢勝庵」があります。毎日散歩をしていると屋根や壁が壊れそうで、早く手入れしなくてはと感じています。夢勝庵の説明会がありますが都合で出席できません。無知な為で、何をどうしていいか分かりません。何かお手伝いが出来ればうれしく思います。	東多田夢勝庵は、国登録有形文化財に登録されているとともに、市の景観建造物と県の景観形成重要建造物にも指定されています。そのため、修復にあたっては国や県の補助制度があり、所有者がその制度を活用し、修復をすることができますが、その判断は所有者が行うものです。市民の皆様には、東多田夢勝庵をはじめとした歴史的・文化的な地域資源の魅力を広く情報発信していただければと思います。	D-7
36	その他	・散策道の整備 現在、旧ダイエーの裏を流れる猪名川の堤防工事と橋の取り換えが続いています。この堤防の上と橋は朝夕沢山の散歩者が周回しています。しかし、南側の銀橋両端と、コンニャク橋の北側の3か所は一般道を通って、堤防上に繋がります。一般道はご存知の様に車が激しく、非常に危険です。出来れば、この3か所に歩道専用道を作って安全に周回できるように作成していただきたい。	ご意見の銀橋西側については、施設が支障となり歩道の整備が困難な状況であります。東側については、今後、新たな歩行者空間の確保の可能性について、検討していきます。コンニャク橋の北側については現在、兵庫県において塩川橋の架け替え工事や河川改修工事が進められており、これらに併せて確保できるよう協議をしていきます。	D-8